

## 子どもは遊びのなかで、6つのダイアを拾う

前言 遊び

1. なかま
2. 探す 自発性の発達
3. 熱中
4. 過剰な神経回路からの選択
5. 実感
6. 体力・気力

結語 テストが出来れば頭がいいか？

昔から「よく遊びよく学べ」といいますが、古人が遊びを勉強より先に置いたのは意味がありそうです。

今から 800 年前の平安時代に後白河上皇という方がおられ、5 代の天皇にわたり院政を布き平清盛から源頼朝まで手玉に取った政治家天皇 / 上皇でしたが、流行歌が大好きで、カラオケもない時代ですから自ら歌い作曲し宮中の女官や公家たちにも歌わせて楽しんでいました。そのあけく当時の流行歌「今様(いまよう)」の歌集を編集して「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)」と名付けました。この歌集でもっとも有名なのは、子どもの遊びをうたった次の歌です。

梁塵秘抄(りょうじんひしょう)より

編 後白河上皇

遊びをせんとや生(う)まれけむ  
戯(たはぶ)れせんとや生(む)まれけむ  
遊ぶ子どもの声きけば  
わが身さへこそゆるがるれ

解釈がいくつかありますがそのひとつは、

遊んでいるときに子どもの生まれつきの姿なのだなあ

遊んでいる子どもの声の純粹さには

権謀術数の世界に身を置く私でさえ、心を揺さぶられてしまうよ

というものです。さて 800 年後のいま 2008 年です。

脳科学は今や世界中の野心的な科学者が激烈な競争をしている分野ですが、子どもの脳の発達についての最新の成果は、子どもが順調に育ち社会に出て活躍するためには、驚いたことに“子どもだけの屋根のないところでの遊び”をたっぷり経験することが大切だ、ということ。

『人生で必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』という本を書いたアメリカのロバート・フルガムは哲学者ですが、彼は幼稚園の砂場で何を学んだのでしょうか？

- ！ なんでもみんなに分け合うこと
- ！ ずるをしないこと
- ！ 人をぶたないこと
- ！ 使ったものは必ずもとのところに戻すこと
- ！ 散らかしたら自分で後片付けをすること
- ！ 人のものに手を出さないこと
- ！ 誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと
- ！ 食事の前には手を洗うこと
- ！ トイレに行ったらちゃんと水を流すこと
- ！ 釣り合いの取れた生活をする、それは毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと
- ！ 家から外へに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること
- ！ 不思議だな、と思う気持ちを大切にすること
- ！ 金魚も、ハムスターも、二十日ねずみも、発泡スチロールのカップにまいた小さな種さえも、いつかは死ぬ。人間も死から逃れることは出来ない
- ！ 子どもの本で覚えた言葉、何よりも大切な意味を持つ言葉は、  
「自分の眼で見てごらん」

これを脳科学から解釈すると、正常な人間が備えるべき社会的常識と「心の理論」となります。このような常識と心の持ち方を身に付けるのは、2歳ごろから6歳ぐらいまでの年齢が最もよく(臨界期といいます)この時期を過ぎてしまうとなかなかうまくいきません。

思い切りわんぱくが出来る環境に置いてあげると、子どもの心に深い智恵と常識が根を下ろしますが、遊ぶ環境がなくまわりの愛情が薄く虐待などで傷つけると、心がひどく萎縮して大人になっても社会的常識がない、他人を思いやる心が乏しい人間になることが多いのです。

## 6つのダイアとはなんでしょう。

### 1つ目のダイアは、”なかま”です

人は社会の中で生きています。なかまと遊ぶうちに無意識に人との付き合い方を覚えます。同じ顔ぶれで、ひまさえあれば集まって遊びます。気が合う子もいれば、喧嘩もします。自分とは相性が悪い子が、他の友達と仲良く遊んでいることもあります。普段はおとなしいけれど、誰かが川に落ちたとき慌てずに大声で大人の助けを求める、いざというとき機転が利く子もいます。いつもいばるのに、転んで額から血が流れただけで泣いてしまう子もいます。親切な子、怒りやすい子、利己主義な子、勉強は苦手だが野球は四番でピッチャーという子もいます。

## 2つ目のダイヤは、” おもしろい事を探すこと “

探し求める心は自発性を発達させます。

遊びでは、「つまらないけれど我慢して遊ぼうね」はありません。つまらなければおもしろいことを探しますね。好奇心は人間の本能で、探索行動から自発性がはぐくまれます。おもちゃをたくさん与えられる子は、恵まれているように見えても探す必要がないので自発性が伸びません。社会に出てからは自発性がある子が伸びて活躍します。100年の歴史がある世界のサッカー界では、子どもに過剰なコーチをする弊害が問題で、ペレやマラドーナのようなストリートサッカーから出た天才を育てる方法を真剣に研究しています。

## 3つ目は、“ 熱中すると頭がよくなる ”(賢さの中枢である前頭連合野が発達する)

遊びの一番の特徴は、おもしろいことに熱中することです。熱中すると脳内ホルモンの一つドーパミンの分泌が盛んになり、特に前頭連合野のシナプス形成が活性化します。テスト勉強はあまりおもしろくないので脳内ホルモンは多く出ません。日本では、苦手なことを直すように指導すること多いですがそれよりも、好きなことを思い切りさせるほうが頭はよくなります。「好きこそもの上手なれ」と昔の人は言い得て妙ですね。

前頭連合野は、各種の知能を総合的にまとめて働かせ、社会という複雑な環境で問題解決に当たる大中枢で、最上位の知的能力です。チンパンジーでさえ人の前頭連合野の容量の6分の1しかないのです。

知能は、5～7ぐらいの独立した機能部位が脳のなかで別個に働いています。

言語的知能      論理数学的知能      空間的知能      音楽的知能  
身体運動的知能      絵画的知能      などです

例えば、モーツァルトを聴くと空間的知能が高まることが実験でわかりました。

空間的知能とは、ものがどのような位置にあり、どんな速度で動いているか、またどんな関係にあるのかを知覚して記憶し、それに基づいてどんな行動をすればいいのかと考えるときに必要な知能です。サッカーの中田選手はこの能力が天才的だということがわかっています。モーツァルトのピアノソナタ、作曲番号 400 番以降の曲でとりわけ有効なのは「2 台のクラヴィアののためのソナタ K.448 」です。清水エスパルスの選手が試合前に聴くと効果的かも知れません。

## 4つ目は、“ 神経回路がたくさん残る ”

成長の過程では、いったん多めにつくっておき、後に不要なところを捨てることがしばしばあります。脳神経系も8歳から10ごろに神経の連絡回路網を思い切り多く作っておき、使用頻度が少ないものは自然に融解してゆきます。

皆さまも覚えていると思いますが遊びでは、名前がつかない雑多なことや見るからにばかばかしい事をしますね。それで、「遊ぶひまがあったら勉強しろ！」などと叱られます。

一方、テニスクラブやサッカー少年団やスイミングスクールや習字や英語塾などに入ると意義があるように見えるためか親御さんは安心します。従っていまの子どもが過ごす時間には全部名前が付いています。しかし本当は、スポーツクラブや塾では決まった種目をコーチや先生に教わるため、子どもだけの遊びの代替にはなりません。

大人も名前がない時間を持たなくなりました。定年退職後も地域のためのボランティア活動とか、蕎麦打ちとか立派なことを予定している人が多くいます。

でも、何をするでもなくぼんやりしたり、行き先を決めずに旅に出るのも充実した過ごし方です。人間は名前のない時間のなかで心の栄養を補給するのです。多忙な日々でも、ぼんやりする時間は大切だということを大人たちも再認識したいものです。

### **5つ目は、“自然を実感する”**

遊びながら自然の木や草や空気の流れや虫や動物やなかまの子どもを実感し、自分だけのデータベースとして体内に構築し、社会に出て知的再生産をする場合に心の肥料として役立たせることです。現代人は都市化が進んだ結果、自然の一員であることを忘れてしまいました。

「バカの壁」を書いた養老孟司教授に聞きましたが、現代のあらゆるパワーは「都市」に集中し、そこは樹木も草も建物や街路やガス・水道・電気の配管などすべてを計算してつくる世界なので、計算や予測が出来ないことが一番困る。自然や生物、特に女性と子どもは最も予測しにくいものなので都市を支配する者からは邪魔な存在と見なされる。孔子が、「女子と小人は養いがたし」と発言したのはこの意味なのだ。ということです。

自然を実感し無意識にデータベースとして貯えていると、社会人として知的活動をするときに肥料となりアイデアの源泉となり、独自の思考や情報を発信することが出来ます。

石に躓いて石の硬さをいやというほど感じる、転んで手をすりむいてヒリヒリした痛みを味わう、焚き火をして火の熱さを実感する、足首が朝露で濡れるのを感じる、安倍川に入って水の強い流れでよろよろする、川底のぬるぬるした石を素足で探る、転んで水に入れば濡れた衣服の冷たい重量を感じる、これだけのことさえ経験する子どもは少なくなっています。学校に美しい木の床があるのにソックスはいて上履きを履く。どうして素足で走り回らないのでしょうか。

### **6つ目は、“外で遊べば、体力がつく”**

子どもを思い出してください。体育の時間に先生のよーいドンで走るときと、鬼ごっこで友達に追いかけて走ると、どっちが必死に走りますか？追いかけるときに決まっていますね。逃げるときはカーブしたり樹や電柱やいろんなものを盾にとったり、捕まらないように必死で走ります。

遊びでは、走る、飛び上がる、飛び降りる、ぶら下がる、投げる、棒を振り回す、なかまと取っ組み合う、泳ぐ、持ち上げる、などおもしろいし楽しいから時間を忘れて夢中で思いきりあべれます。戸外で思いきりあべれると知らないうちに体力がつきます。部屋でゲームをして体力がつきますか？エレベーターやエスカレーターに乗ると体力がつきますか。これは、高齢者や心臓や脚が弱い人のための道具です。

身体は、若くても使わなければ急速に衰えます。四肢や体幹の筋肉を強くし、心臓や呼吸器を発達させるには毎日使う必要があります。それには遊びが一番適しています。

お父さんお母さん、子どもを毎日遊ばせよう！遊びには、入会金や会費は不要、高価なユニフォームもいりません。

## 結語

### 人工養殖の子ども

自然より都市が高級だ、遊びより早期教育が大切だという信念が風靡している現在、日本と韓国の子どもは人工養殖人間になりつつあります。なかまや自然から隔離された心と身体は確固とした生活基盤が発達せずそのため、有名大学や人気就職先を目指せという強いストレスに対する耐久力が乏しく心の問題が多発する素地を用意していることとなります。

今の学校では放課後に遊んでいる子は稀です。理由の一つは、昭和 16 年に制定された国民学校令で 1 校 1 学区制が決まりましたが、学区から自動的にお客様が入学するので、学校の特徴や魅力を競うより怪我がないように、クレームが多い保護者から文句が出ないようにと放課後の遊びを勧めないのかもしれない。

### テストが出来るとアタマがよい、というのが世間の常識ですが本当でしょうか？ テスト勉強を遊びで獲得する 6 つのダイアと比較しましょう。

#### テスト勉強

- (1) なかまが出来ない (テスト勉強は一人きり)
- (2) 自発性が発達しない (テスト問題は与えられる)
- (3) 熱中しない - 前頭連合野の発達が限られる (勉強がおもしろい子は少ない)
- (4) 神経回路はテスト勉強で使うところしか残らない (使用領域が非常に少ない)
- (5) 自然環境と縁が切れる (自然の中で過ごす時間がない)
- (6) 体力はつかない (勉強しても体力はつかない)

社会では、うまく問題を解決するかどうか人が人の能力とされますが、遊びとテストのための勉強のどちらが解決能力を発達させるかは自明です。

	テストの問題解決	社会で問題を解決する
問題	与えられる	自分で考える
解答	1 問一答	答えは多いし組み合わせもあるので、選択が難しい
評価	正解の数	解決結果だけでなく、いか解決したかも問われる
人間的な評価	なし	魅力や実行力や説得力や段取り力など求めは多い
時限	決まりがある	締め切りはあるが別の問題がからむため、時間の要素は変化しやすい

## 子どもが大切だ、と言い切る

### 日本では子どもが一番大切です と宣言しよう

人生の始まりで、「子ども」という時代を送る人々を大切に作る

#### ・検証、子どもが大切にされていない具体的事例

##### (1) 子どもの現状

子ども殺し対策がない

小学生、中学生の凶悪な犯罪に対策なし

子ども虐待の増加は、次世代へ向けて虐待する親を再生産している

～ 対策の基礎として、現在は事例の精神医学的分析が主流で、家計や家庭環境を含んだ包括的な研究は少ない

小学生喫煙の増加(中学生は珍しくない) 朝の会話:お父さん、タバコない?

テレビやゲーム漬け 1日 4～6 時間で、外遊びの時間がない

人も動物も幼・小児期に遊びの中で脳とからだの発達を獲得し独立の準備をすることが国民に理解されていないので、きちんと教育すれば子どもの問題は解決すると誤解している人が多く、教育は過信されている。

子どもの体力減退は、テレビやゲームと塾に遊びの時間を取られるためと分かっても対策が取られない

幼児早期教育の流行で遊び時間が奪われ、脳(特に前頭連合野)の発達と体力の発達が遅れている

調査によると、3 歳以下の乳幼児の約半数が午後 10 時過ぎまで起きているのは世界で日本だけ

深夜にコンビニで親子を見かける(子どもの入店制限がない)のは日本だけ

##### (2) 保育園児の問題点

ある保育園では、当初の定員 120 名が水増しされて今は 175 名、10 月からは定員撤廃の指示。待機児童は減るが施設は 120 名が基準なので、園庭が狭くのびのび遊べないし、設備も職員も不足のまま。これは駅前の自転車を駐輪場へ入れれば済むというのと同じ。子どもの心身の発達には自転車と違って、泥だらけであれば回る園庭や泥を洗った後の着替えや室内のおもちゃや絵本や遊び相手が必要。

ある保育園では、暑さが厳しかったこの夏、乳児室の気温が 37 を超えたのでクーラーを入れるように希望を出したが、入ったのは事務所のみだった

小学校と中学校では病気になる児童生徒は稀であるのに養護教諭がいるが、最も感染症に罹りやすい年代で、アトピー性皮膚炎や喘息や食事アレルギーも多く、虐待も分かりにくい、ゼロ歳から6歳までの保育園児には、看護師が配置されていない。

厚生労働省の「保育園待機児童ゼロ作戦」とは、自転車と同じように駐輪場を整備すれば問題解決という考え方で、起きている時間のうち家庭にいる時間の3倍を保育園で過ごす子どもの成長と発達に必要な、遊ぶ場所と十分な保育士を保証していない

(3) 児童相談所の問題

静岡県児童相談所では、14年間に職員が1.5倍、虐待等の相談件数は23倍に増加しているため職員は疲れ果て、相談者への対応が不足がち  
児童相談所に児童精神科医を採用しようとしても、全国の大学医学部と医科大学で児童精神科の講座を持つのは1校だけしかない。これは日本だけ。

(4) エンジェルプランは消えてしまった？

ある市のエンジェルプランは施策が130以上もあり関係者も熱心だが、17部課が関係し似たような施策や効果が少ないものも多いが、部課が縦割りなので整理できない。母親の希望に応じる余地が少なく予算の重点投下がむづかしい。  
上記のような事態は国、県を含めた殆どの自治体で、評価がされないまま情性で実施されている。施策を、子どもを中心にすえた省庁で統廃合することで効果的な施策に変えられる。

(5) 子ども人権宣言

国連子どもの権利委員会は、1998年6月24日、日本の子どもの現状について政府報告を審査した報告書を出し、日本の子どもの置かれている現状に月、最終所見で厳しく批判し、改善を勧告していた。

(6) 時代遅れの成果主義教育の害

報酬(ほめること)と罰により子どもの行動をコントロールする教育は、米国で50年前に流行した教育メソッドで、世界的には過去の遺物だが日本では信者が多い。その結果日本では子どもの好奇心や感情表現が抑制され、のびのびした心の発達が妨げられている。大人の意にかなう行動で評価するのは安易だが、子どもの心の動きを受け止めるのが教育者のつとめ。

(9) 小児科医と産科医が不足し、妊娠してもお産が出来ない地域が各地に出現し、小児救急医療体制も破綻しつつある。

**. 国連子どもの権利委員会から、9年半前の1998年6月24日、**

**日本の子どもの置かれている現状につき、誠実な対応がないことや**

**少年法等の後退などを厳しく批判され改善を勧告されていた**

**子どもの権利条約 1989年11月20日午前10時、国連総会にて満場一致で採択  
日本の批准は、5年後の1994年4月**

1998年6月24日、日本の子どもの現状について政府報告を審査した国連子どもの権利委員会は、日本の子どもの置かれている現状につき、最終所見で厳しく批判し、改善を勧告していた。数年後に行なわれた第2回審査の最終所見においても、第1回審査で行われた懸念・勧告についての誠実な対応がなく、少年法・教育法制を巡る後退が問題にされ、更に具体的な懸念と改善勧告がなされている。

**1) はげしい校外教育の競争が家計を圧迫し、親と子に強いストレスをかけている  
中退した子の出直しに役立つ夜間高校の統廃合が進み選択肢が減っている**

競争が激しい教育制度のストレスにさらされ、かつその結果として余暇、運動および急速の時間が得られないために子どもの間で発達障害が生じている。その懸念を維持した上で、補習が貧しい家庭の子どもを直撃し、中退した子の出直しに役立つ夜間高校の統廃合が進んでいること、歴史教科書などが一方的な内容であることなどが問題にされ、競争を緩和するようカリキュラムを見直すこと、生徒・親と協働して、問題(特に暴力)に対応する措置を策定し、(東京都の)夜間学校の閉鎖を再考し、教科書にバランスの取れた記述が確保できるシステムを考える等を求めている。

**2) 子どものプライバシーの権利を保障するための措置、とりわけ、家庭、学校およびその他の施設において、それを保障するための措置を十分に講じていない。その懸念を維持した上で、通信・私物検査などを含めプライバシー権の完全実施を確保し、施設における最低基準を改善することを求めている。**

**3) 子どもの虐待の増加とそれに対する対応策が不十分**

家庭内において、性的虐待を含む子どもに対する虐待および不適切な取り扱いが増加していることを懸念する。事案のすべてが適切に調査され、虐待を行なった者への制裁が科され、なされた決定が公表されることを確保するために取られた措置、また、虐待されている子どもの早期発見、保護およびリハビリテーションを確保するために取られた措置が不十分であることを懸念する。

対応はあるが、包括的・学際的戦略が存在せず、被害者に対する回復及びカウンセリングが不十分だとし、市民・ソーシャルケースワーカー、親、子どもと協働して、学際的国家的戦略を策定し、訓練された専門家の数を増加させる、子どもに配慮した方法での取り扱う研修の機会を増加することを求めている。

**4) 子どもの意見の尊重と参加を促進する制度が整備されていない**

およそすべての子どもが、社会のあらゆる領域において、とりわけ、学校制度の中において、その参加の権利を行使する際に直面している困難に、特別の懸念を表明する。子どもの意見を尊重することを妨げる態度が社会に存在することを問題にし、すべての場で子どもの意見の尊重と参加を促進し、参加についての教育的情報を広く子どもに関わる親、専門家などに広げ、子どもの意見の尊重への取り組みを定期的に検証し、さまざまな組織に子どもが制度的に参加することを確保するよう求めている。



. では、これからの 10 年間のために、どんな施策をとればよいか？

(1) 子どもを大切にすると、**「子どもの権利条約」を常に参照し、子どもの**

**ベストインタレストに基づいて考慮し行動することだ**

The best interest(s) :子どもにかかわるすべての活動において、(中略)子どもの最善の利益が第一次的に考慮される

ベストインタレストは、子どもの権利条約第 3 条はじめ、9、18、20、21、37、40 の各条文に使われている、条約のキーコンセプト

別の言い方をすれば、

子どもがまわりの人を信頼し、安心して(衣食住や虐待の心配なく)日々を過ごすこと

子どもが、屋根のないところで思いきり遊べる、場所と時間となかまがあること

(2) **国民のこころの改革が必要だ**

**男性(とくに社会を主導する中高年の男性)、女性、若者、子ども自身、**

**高齢者など全ての国民が、子どもは無条件に大切だと思いうようにしたい**

子育てしながら働くお母さんが、子どもが熱を出したので、子どもの夏休みでディズニーランドへ行くので、幼稚園の親子遠足があるので、休みたいと申し出たとき、大企業は別として、労働人口のほとんどを占めていながら、労働基準局も雇用者数さえ把握できていない小規模零細企業では、「明日から来なくていい」

(3) **国に「子ども省・庁」を新設することからはじめよう**

子ども省って、いろいろな職種が力を出し合って協力して「声なき子ども」のために一肌脱ぐみたいな感じでいいですね、という声があがっている。

従来の行政組織ではこうした問題に充分に対応できなくなっているのも、組織改革が広がる一因、という指摘がある

「家庭」「地域」「行政」「事業主」の役割分担と連携のうち、行政の役割が最も大きく、行政が変わらなければ民間も変わらない

「子ども省・庁」が出来れば、縦割り施策を統合し予算が取りやすくなるとともに、基本理念を施策化しやすくなり、効率化し、担当職員が動きやすくなる

「子ども部」新設により、「行政内部」「地域」、「家庭」、「事業所」へ意識変革のメッセージが伝わり、連携の土台となる

#### (4) 子ども支援システムの改革

もっと多額のお金をかけなければ話にならない

子どもの保護を、法的な義務として厳重に取り締まる

例) 車内に子どもだけで放置することを法で取り締まる

施策を、短期間の見通しで実利の有無があるかどうかによって評価しない

施策を1～3年ごとに再評価と検証を行う

子どもに、外で思いきり遊ぶ、場所と時間となかまを提供する

子ども省・庁主催で、市民が参加する会議で施策を決める

子ども省・庁主催で、子どもの参加する会議で施策を決める

10万円～30万円の高額**子ども手当て**や**医療費無料化**はいい考えだが、保護者が現金を消費してしまうし、深夜・時間外の救急外来に夜間診療所のつもりで受診する人が急増しているなど問題が多く、お金をもらえるから子どもを作ろうという人が愛情豊かな子育てをするかどうか疑問だといわれる

ある市営子育て支援センターでは、子どもを預かる費用が最初の1時間800円でパート勤務の母親の時給と同じくらい。民間の無認可託児所でも、500円から700円取られる。

おむつ代もバカにならないので交換時間が長くなり、お尻が真っ赤になっている病気になって医者にかかるにも、月末にはバス代やタクシー代がないので我慢することがあるので、無料バス券やタクシー券は民間企業へもお金が回る

以上のように、子育て支援は低所得家庭の実情を親身になって聞き取り、子育て生活が楽になるように、母親の心身の負担を減らすように見直す必要がある

**外遊び不足は日本だけでなく世界共通の問題**になっている

\* 全国各地で多彩な、子どもが外遊びできるようにする試みがされているので、全国大会を開催して事例を発表してもらうとともに、参加者相互の情報交換、親睦を図り、機運を盛り上げる。日本で、世界大会を開催する

#### (5) 「子どもの外遊びの権利」を公的に位置づけ保障する

学校外教育に時間と費用の制限を加える

地域又は国で、勉強してはいけない日を、週3日決める

国立、県立、市立の冒険遊び場をつくる

#### (6) 労働市場の悪条件の認識と対策(法的規制と予算措置)

以前から多数の指摘があったが、悪質な人材派遣会社はパートやフリーターの時給を低額に抑制、労働条件は劣悪であることを、子育て支援にあたる行政当局者が認識し、対応策を法制化する必要がある

子どもが病気になったとき、保護者に有給休暇を取らせることを義務付ける